

研究計画書

2022年6月28日

所属：リハビリテーション科

主研究者：神山紗和

共同研究者：神山紗和、飛鷹恵理、村上嘉章、三隅啓三、小林平

研究テーマ

肺外科的治療のハイリスク症例に対する術前外来リハビリテーションの有用性

1. 研究の背景（動機と意義）

当院では2014年9月より肺外科的治療のハイリスク症例に対して術前外来リハビリテーションを開始している。今回、術前リハビリおよび周術期、術後外来リハビリまで継続して行えた6症例を経験し、ハイリスク症例に対する術前リハビリの有用性について検討を行った。

2. 研究目的

本研究の目的は、肺外科的治療のハイリスク症例に対し術前外来リハビリテーションを行うことの有用性を検討することである。

3. 研究方法

1) 研究デザイン：後ろ向き研究

2) データ収集期間：2021年1月から2022年5月

3) 調査対象者：当院での術前リハビリテーション導入基準である、GOLD分類Ⅱ以上のCOPD、気管支拡張薬投与後のFEV₁%70%未満、現喫煙者のいずれかが該当し、術前リハビリテーション介入後に肺切除術を行った6例

4) データ収集方法：カルテより情報を抽出する

抽出内容：患者背景、血液データ、肺機能データ、理学療法評価（6MWT、握力、ROM（頸部・肩関節）、SPPB、FIM、NRADL、MRCスケール、MMSE）、術式、術後離床開始日数、ドレーン留置期間、術後合併症の有無、術後在院日数

5) データ分析方法

術前外来リハビリテーション介入前後で、肺機能データ、理学療法評価（6MWT、握力）の比較を行う。検定はWilcoxon符号付順位和検定を用い、 $p < 0.05$ を有意水準とする。

4. 倫理的配慮

データで個人が特定されないように配慮する。本研究以外ではデータを使用せず、研究後はデータを破棄する。